

駒形神社本殿



よみ
指定
種別
数量
所在地
所有者
指定日

こまがたじんじゃほんでん
市指定有形文化財
建造物
1棟
御前崎市御前崎
駒形神社
昭和44年6月25日



向拝中構の臺股



木鼻(象鼻)

詳細情報

構造 一間社入母屋流造柿葺
(いっけんしゃいりもやながれづくりこけらぶき)

解説

駒形神社の由緒は、明らかではありませんが、聖武天皇時代(701~756)と伝えられています。また、その社名から律令期(奈良~平安時代)にこの地域一帯にあった白羽官牧と関係の深い神社のひとつと考えられます。

本殿は様式的には江戸時代中期から後期前半あたりの時代的傾向が顕著であり、本殿の建立年代はそのあたりと推察されます。

本殿の構造の一間社というのは、実寸法ではなく、構造様式の表示方法であり、流造というのは、前流れの屋根が曲線状に長くのびて向拝となったものです。

母屋(本殿)の柱は円柱で、二手先出組(ふたてさきでぐみ)で丸桁(まるけた)をしっかりと支えています。頭貫(かしらぬき)の中備(なかぞなえ)は臺股(かえるまた)となっており、正面は鳳凰・左右は兔と馬、裏は鶴となっています。屋根は柿葺(こけらぶき)で材は檜(ひのき)です。